

宮城県行政評価委員会 政策評価部会
第1分科会（平成21年度第2回）審議要旨

日時 平成21年6月16日（火）15:00～16:15

場所 県庁11階 第2会議室

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 施策評価の説明・質疑
政策4「アジアに開かれた広域経済圏の形成」の各施策
 - (2) 政策評価の説明・質疑
政策4「アジアに開かれた広域経済圏の形成」
- 3 閉会

出席委員 堀切川一男委員（分科会長）、成田由加里委員、足立千佳子委員

- 1 開会
- 2 議事

政策4 アジアに開かれた広域経済圏の形成

施策8 県内企業のグローバルビジネスの推進と外資系企業の立地促進

国際経済課長より説明

（堀切川分科会長）

・目標指標等1「宮城県の貿易額」はすっきりしている。目標を上回り、Aとなっており良かったと思う。目標指標等2「企業立地件数（外資系企業数）」は累積の件数で、平成19年度は1件、平成20年度は0件ということだが、達成度ではBになる。実態としては、累積で割り算をして評価する指標の考え方自体が合わないのではと一県民として思う。ただ、これを継続でやっており、変えられないのであれば、説明は分かりやすかったので、記述として、例えば、企業立地件数で0件でも商談が進行している案件もあるということだったので、そういった説明を記載してもらえばいいと思うがどうか。

（国際経済課）

・おっしゃるとおりである。県民により分かりやすく、事業の効果を示すには、協働研究に至った件数や拠点を日本に置いた外資系企業の指標等で細かく示していった方がよいと思う。

（堀切川分科会長）

・外資系企業の立地促進を東北大学のサイエンスパークに期待する記述があるが、そこに期待するだけではどうか。サイエンスパーク自体は外資系に限ったことではないので、ここに期待するよりは、県として主導する事業を書いてはどうか。

(国際経済課)

・外資系企業誘致は簡単にはいかない状態である。的をあわせる取組が効果的である。このタイミングでサイエンスパークという構想があるので、それに焦点をあわせ、外資系の研究開発型企業にターゲットをあわせて、誘致した方が、この期間において効果が上がると考えている。この他の取組みでも姉妹県関係をもっているデラウエアとかイタリアとかいろいろとやっている。取り組まない訳でない。

(堀切川分科会長)

・立地企業数は分かりやすいが、外資系企業がいっぱい来て、県内企業を圧迫したらどうするかということもあり、もう少し広くとらえてほしい。例えば、外資系企業の総合代理店に県内の技術系の商社が参入してきたというのも、同じ重みでカウントできると思う。広くとらえて、県民にとってプラスになるのであれば、立地しなくても同じことが言えるのではと思った。

(国際政策課)

・平成19年度までは外資系の製造業や外資系コールセンターを立地することでカウントしていた。平成20年度からは、研究開発型企業ということで、そこが立地するということでカウントしていた。そこに至るまで、地元企業含め大学の先生を含め、いろいろな取組みをしている。その取組みの成果が分かるような内容にし、また、指標も検討したい。

(堀切川分科会長)

・県民意識調査結果では「わからない」という県民が多いが、説明にあったような、広くとらえた展開、分かりやすい成果、例えば、県内にどんなメリットが出るのかということを知れば「わからない」が少なくなると思う。

(足立委員)

・いろいろな企業をグローバル化することを目標にしているが、対象企業がどのくらいで、そのうちどのくらいがグローバル化されたのか知りたい。

(国際経済課)

・具体的に何社増えたかというのが分かればよいが、そういう統計をとっていない。貿易額と事業の利用企業数は把握している。平成20年度は約1100社の利用がある。県内の事業所数は、約32,000事業所程度である。相対的に増えているかは把握していない。ただ、毎年、活動件数や利用件数は増えているので、数は増えていると思う。なお、そういうのも必要であるので、今年度、全事業所のうち、どのくらいが海外ビジネスに取り組んでいて、どういった考えを持っているのか調べるつもりである。

(足立委員)

・成果が県民の暮らしとして、実感がない。対象企業が海外に行ってもうかることにより、県民の生活が豊かになることを望む。

(国際経済課)

・県民の理解が進まないのが、受益者が企業であるということもある。県民意識調査の対象は個人である。法人に一定の条件で調査すれば認知度は高まると思う。県としてもマスコミへの投げ込み等もしており、いろいろなところで、成果を分かりやすく、根気強く示していきたい。

(成田委員)

・説明を聞いて、基本票の書面からのイメージと違うと感じた。もったいないと思う。もっと成果をアピールしてはどうか。事業1「海外事務所運営費補助事業」の活動指標の海外事務所総活動件数というのは、県民からすると何をするのかなじみがない。事業3「県産農林水産物等輸出促進事業」については、活動の状況等の具体的な数値がない。中身を読むと一定の成果があったことは分かるが、何をやって何件増えている、企業規模も大きくなったといった具体的なものを記載すれば、伝わるのではないかと思う。

・県民意識調査結果の「わからない」ということも、一つ成功例があると周りも興味がわき、うまくいくこともある。青森のりんごが台湾で受けたとか、宮城県の中でもこれが売れて、もうかった会社があるとか、プロジェクトXのような事例があれば教えてほしい。

(国際経済課)

・企業の興味を掘り起こし、支援するというスタンスであり、企業情報もあるので、企業の成果を全て逐一集めてない。ただ、これは集めていないから、認知度が低いのかもかもしれない。ただ、農林水産部で取り組んでいる県産品の輸出がある。積極的に売っていこうというもので、実績はオープンに分かりやすいものになると思う。例えば、鯨勘のアミノという会社だが、海外に出店する際に、海外事務所で支援しており、また、県内の中小企業でも出店するという動きもある。この動きを労働契約、出店店舗の探し方などで支援している。具体例としては、いちごの「もういっこ」が香港に出たり、蔵王の梨も一時期取り組んでいた。米は国の事業で中国に「ひとめぼれ」が出たこともあるし、今後はそういうことをもう少しはっきり打ち出せるかと思う。

(堀切川分科会長)

・鯨勘はどこに出店したのか。

(国際経済課)

・中国の上海(正しくは「大連」)である。中国以外にもいろいろと考えているようだ。

(堀切川分科会長)

・県ではいろいろやっているのだから、分かりやすい事例を書いた方が県民にとって分かりやすい。どこそこに出店する支援をしたということをして、成果として見えるようにすればいいかと思う。

(国際経済課)

- ・ロシアについては、様々な取組が出てくる。全国的にも先進事例になる。小さな成功事例も出せるようにしたい。

(堀切川分科会長)

- ・世界同時不況を踏まえることはないのか。

(国際経済課)

- ・中国は不況でも成長率は維持している。今後世界経済をけん引する役割が強くなると思われる。東アジアを中心とした取組みは重点的にしていきたい。今現在、食品も製造業も、あるいは売ることから海外支援、契約までまとめて事業をやっているが、農林水産物にもう少し特化した取組みにしてもう少し効果をあげたい。

(堀切川分科会長)

- ・産業の幅が広くて難しいと思うが、地元の企業のニーズがどこにあるか、不況の中で、このタイミングで今まで見えないものが、見えてくる可能性がある。いろいろな産業のニーズを調べて反映して事業にするなら、それを書いてもらえば県民は応援したくなる。この状況だから顕在化してくるニーズがあり、それを施策に取り込めればいいと思う。

(国際政策課)

- ・今のようなこともあり、企業誘致についても、こういう時期で企業も研究開発に力を入れており、我々もこういう時期に東北大学の力、地元企業の独自技術、県の海外自治体との関係等を活かしながら、研究開発型の地元企業を海外企業とマッチングしていきたいということで、今年度から方針を立てて取り組んでいる。

(堀切川分科会長)

- ・説明では、基本票には書き込まれてない数字がいっぱい出てきた。例えば経済交流の対象企業が1100社ということなど、数字として書き込んでもらうと分かりやすく、そこから県民の意識が変わると思う。ぜひ数字も入れてほしいと思う。ちなみに、商談会件数の後に成立件数も書いた方がいい。

施策9 自立的に発展できる経済システムの構築に向けた広域経済圏の形成

新産業振興課長より説明

(堀切川分科会長)

- ・聞いたかったところの回答がただいまの説明にばっちりあった。目標指標等「宮城県の貿易額」の達成度がAだから、施策は「順調」というのでは実はない、というのは県民の皆さんもそう思うのではないかと思う。「評価の理由」欄に他県との連携などをやっていることがきちっと記載され

ているが、本来は、そういう中から数値化できるものが出るとよいと思うので、検討を続けていただき、将来目標指標等が変わっていけばいいと思う。

・県民意識調査結果については、「満足」の割合が「不満足」より上回っているから一安心、というような御説明もあったが、満足度でいうと「わからない」という回答が44.1%と多い。満足度を判断してもらえよう施策を理解してもらうための周知の工夫が必要ではないかと感じた。自分たちの生活基盤の中でこういう施策がこういうふうにかえってくるんですよ、というのが分かれば、理解しやすくなる面もあると思うので、県民に分かりやすい成果で周知をする工夫があればと感じたがいかがか。

(新産業振興課)

・おっしゃるとおりである。本県を中心として隣県とどのような形で広域的な体制を円滑に作っていくか、競争しつつ一体的に地域が発展するために同じ方向に向けて各県が施策を展開していく、という取組みがいかに重層的に展開されるかが重要だと考えている。そういう意味で、そういったものを体現するような指標が複数必要ではないかと考えているので、複数ピックアップしていきたいと考えている。

(堀切川分科会長)

・隣県との関係は難しく、競争より共生へというのは言葉では便利だが、仲良くなればなるほど競争のポイントも増えてくるので、大変だろうと思う。

(足立委員)

・アジアに開かれた広域経済圏の形成のために、交通・情報ネットワークの整備が必要だということと理解してよいか。

(新産業振興課)

・市場としてアジアに向けた展開をするには、発信側の態勢が脆弱では継続も発展もしない。そこを強化するには、経済活動に関しては企業が主となるプレイヤーなので、そういうところが補完、協力し合いながら展開していく必要がある。行政でもそういったものを後押しするための連携をとるという意味で、そのための基盤として社会資本は経済活動を底支えするために必要な事業という認識で、この施策に掲載されている。

(足立委員)

・一般の人には、そこが分からないところではないかと思う。具体的に、東北が連携し合うことで経済が強くなり、海外に向ける、ということが分かると、県民にもその必要性が分かってくると思う。暮らしに直結しているところで示すと分かるのではないか。今日の説明を聞いて、私もなるほどと思ったので、そういう機会が県民にもあるとよいと思う。

(成田委員)

・事業1「地域連携推進事業」については、唯一再掲ではないものだが、事業分析シートに定性的なことは記載されているが、具体的にどのくらいの参加者数があって、どのようなことをしている

かが具体的に記載されていると、県民としては理解しやすいのではないかと。

(新産業振興課)

・具体的なものによってよりイメージを持っていただけるようになるので、記載に加えたいと思う。

(政策課)

・「宮城・山形未来創造フォーラム」の参加者数は150人、「みやぎ・やまがた地域を超えてチャレンジする女性の交流会」が145人である。本事業は平成19年3月に宮城・山形両県の連携の基本構想としてハーモニープランを策定しており、その中で生活圏・経済圏・交流圏の形成を目指している。「宮城・山形未来創造会議」としては、こうした取組みに対する先導的な事業を行っていくこととしており、具体的には先のフォーラムや交流支援事業である。

(成田委員)

・事業4「高規格幹線道路整備事業」及び事業5「地域高規格道路整備事業」の成果指標となっている「高速道路IC40分間交通圏カバー率」とは、具体的にはどういうことか。

(道路課)

・高速道路の整備の評価はなかなか難しいが、政策評価ではこの指標で出している。全県の95.1%の人口が40分以内に高速道路ICにアクセスできるといことで、利用できる人口の増え方を見ている。

(堀切川分科会長)

・広域経済圏というのは、アジアをカバーするというイメージで使われる意味なのか、東北や南東北なのか、どちらを指す言葉か。

(国際政策課)

・宮城の将来ビジョンでは、一義的には近隣の県、東北を広域経済圏としている。この広域経済圏が力をつけることにより、次に身近なアジアに対しビジネスなどで取り組んでいくこととして理解している。

(堀切川分科会長)

・そう伺うとすっきりする。それならば、目標指標等以外は施策に合っている話という感じがする。
・民間レベルで交流することはいいことだと思う。官官レベルでの交流もしっかりと行ってほしい。例えば、産業界を支援する機関として、山形県には工業技術センター、宮城県には産業技術総合センターがあるが、似たような設備を競って整備するのではなく、互いに長所欠点を補完し合い、事業者が他県に行って相談、利用することができてはじめて、支援側の広域的連携もとれるのではないかと。その辺も何らかの事業でやれるチャンスがあればやっていただければと思う。

(新産業振興課)

・岩手県，山形県との間では，産業技術総合センターが工業系の試験研究機関の分野で定期的に研究内容，研究員の持っているシーズの情報交換をしている。他県の研究員の指導が必要だと思われる場合には，積極的に紹介，斡旋するという取り組みも進んできている。ハード部分では，競争関係は今はそれほど強くなく，それぞれの強みをいかした設備整備に力を入れている。

(堀切川分科会長)

・別の機関の調査事業に最近携わったが，東北の製造業を対象にしたそのアンケートでは，産学官連携で一番連携したい相手として，大学ではなく公設試験研究機関への期待が非常に多かった。にもかかわらず，過去にはどこと組んだかと言うと，圧倒的に大学が多い。産業界は，公設試験研究機関ともっと連携したいという意欲があるが，それがちょっとうまくいっていないという分析があった。東北地方ぐらいは公設試験研究機関が密接に連携をとって，東北の産業界全体をカバーしているということが県民に伝わっていくとよいのではないかと考えている。

・次年度の対応方針として「隣県で実施する人材育成事業で，他県企業を受け入れることが可能なものについては情報提供ができないか検討する」とあるが，当然本県が応援することもあるか。

(新産業振興課)

・相乗りできないかをお互いに情報交換しながら研究していきたいということである。

(堀切川分科会長)

・仙台・山形間のバスは非常に混む。県民レベルでは相当垣根が消えてきている感じがする。ぜひがんばってほしい。

(成田委員)

・次年度の対応方針として，県民意識調査結果で「わからない」が多いところをどのように分かるようにしていくかについて，あれば記載した方が県民としてはありがたい。

(新産業振興課)

・施策名の言葉自体の意味から改めて説明しないと，理解いただくのも難しいということがある。今から施策名を変更するのは難しいと思うので，構成している事業などで施策の内容が分かるよう工夫していかなければと感じているところである。

(堀切川分科会長)

・いろいろなことをやっていて，分かりにくくても成果が出ていることはたくさんあると思う。具体的な事例がすっきり書かれていれば，分かりやすく理解できると思う。県民が分かりやすい事例をいろいろな事業からうまく取り出していく作業が必要である。アジアという冠がついているものの，本当は地に足がついたお話だと思うので，施策がより身近に感じられるよう，県民意識調査の調査票に具体的な事例をあげたり，質問の仕方を工夫するなどしてほしいと思う。

国際政策課長より説明

（堀切川分科会長）

- ・宮城県として、一番一緒にやりたい県は岩手県より、山形県なのかというのを聞いてみたい。岩手、山形、福島と隣接しているが、重みに差があるか。山形県や隣県との連携と記載があるので、山形県と組んだ方が相互補完できるという感覚はあるのか。
- ・答えにくいと思うので、質問を変えるが、聞いてみたいのは、東京のアンテナショップのことである。北海道と沖縄ががんばっていると前に説明いただいた。良い場所は高いので厳しいが、宮城と隣県でセットになって南東北のアンテナショップを出店したら全国初のことだと思う。それこそ、南東北の広域経済圏の運命共同体という意識を東京にアピールできると思うし、同じ場所でやれば少し良い場所における。消費者としては、一つの県のショップに行くよりは、何県か集まったところに行く方が楽しい。隣県と共通で出すことは検討できないのか。

（行政評価室長）

- ・昔は大丸のビルに各都道府県が入っていたが、その後立ち退きでばらばらになった。その当時は、いろいろ消費者は見てまわられた。

（堀切川分科会長）

- ・有楽町のビルに入っているのは何県かある。ということは、南東北はあまり仲良くやっこうとしていないのが実態だと思う。アンテナショップが無理なら、大手デパート等で、南三県でフェアをやったりというのはどうか。

（行政評価室長）

- ・複数の県で集まって、デパートでフェアをやっている。

（堀切川分科会長）

- ・集まってやったら強いと思うが、競合商品があるので、やりづらいかもしれない。シンガポールに出店するとか、アジアに開かれた広域経済圏の拠点があればいいと思う。

（国際政策課）

- ・仙山交流は所管外だが、極東ロシアにどうやって我々が進めていくかは、まさにおっしゃるとおりで、今回、ニジェゴロド州等と交流基盤の強化をしてきているが、県対州では1対1だが、作ったルートで物を流すときには宮城県だけではなく、東北全体として広く活用すべきで、一緒にやることを考えている。ロシアに行ってセミナーをしているのは、本県だけでなく、各県の産品、観光等のアピールをしている。ロシアには、北海道や日本海側も行っており、相手方からはまとめてきてほしいと言われる。海外の商談会にもものを出したときに、ライバルは各県になる。ただ、商談が決まることもあるので、おっしゃるとおり、まとまる力とか補完する力で取り組んでいきたい。

(堀切川分科会長)

・昔、地銀がロシアに拠点を設けたが、結局は撤退した。東北の地銀が連合を組んでやればよかったが、東北は1枚岩にならない。相手側からすればまとまってきてほしいというのは本音だと思う。何かまとまる作戦があるとすれば、県が連合を組む必要があるのではないか。やれるところは早く手を打ってほしい。

3 閉会